

Universal MaaS～誰もが移動をあきらめない世界へ～

移動躊躇層(※)が抱えている課題を、[Universal MaaSのコンセプト](#)に従って利用者および自治体、地域、事業者の視点から解決し、行動変容を促すことにより、観光分野を含めた新たな移動需要を喚起する。これまでの実証実験・社会実装を経て得た課題の解決を目指し、今年度は更に宿泊/観光施設（観光フリーパス含む）との連携等、以下内容でサービス対象を広げ、新たな社会的価値・経済的価値の創造を行う。

(※)障がいや高齢など、何らかの理由により移動を躊躇している方々

協議会の 構成員	【顧問】中央大学研究開発機構 秋山哲男研究室 【幹事】ANAグループ 【協力】交通エコロジ・モビリティ財団 【学術指導】東京大学 本間裕大 研究室 【事業者】＜交通事業者＞ANA、京急電鉄、JR北海道、札幌市営地下鉄、旭川中央交通、旭川電気軌道、道北バス ＜プラットフォーム＞ 手間いらず、日立製作所(移動制約者ご案内業務支援サービス)、明治クッカー 【自治体・関連団体】＜横須賀エリア＞ 横須賀市、LocalIST(横浜国大発ベンチャー) ＜札幌エリア＞ 札幌市 ＜千歳エリア＞ 千歳観光連盟 ＜旭川エリア＞ 旭川市、旭川商工会議所、旭川観光コンベンション協会、カムイ大雪バリアフリー研究所 ＜東京エリア＞ 台東区、渋谷区 ＜松山エリア＞ 松山市(松山ユニバーサル・ツーリズム分科会) ＜福岡エリア＞ 太宰府市、バリアフリーネットワーク会議 【協議会の構成員以外】JR東日本、東京モノレール、MKタクシー、他 数十社[者]	
事業 目的	利用者および自治体、地域、事業者の視点から、移動に困っている人々の課題解決を行い、行動変容を促すことで新たな移動需要を喚起する。	
観光分野 における 課題	介助やサポートを必要としている利用者への対応が、自治体・地域・事業者毎に異なっており、また各交通事業者や施設管理者の連携方法が定まっていないため、利用者側、事業者側、双方の負担となってしまう。	
事業 概要	サービス 開始時期	一部地域で社会実装完了。引き続き、課題解決・追加機能の実証実験を継続するとともに、空路・航路や複数の鉄道路線を利用したエリア間移動への対応を目指す。
	事業エリア	連携自治体の管轄内、連携事業者の営業範囲内
	観光 サービス	- 観光地および交通/観光/宿泊施設の介助手配・受託 ＜対 お客さま＞ 希望するルート、観光地を選択・保存し、旅程管理や介助手配状況確認を可能とする情報・機能 ＜対 事業者＞ 介助を必要とするお客さまが支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能
	MaaSシステム	(1) 一括サポート手配 (2) ユニバーサル地図/ナビ
	観光以外 のサービス	- 徒歩エリアの移動を補助するユニバーサル情報提供機能 - 交通結節点の移動支援、目的地内の周遊支援 - 各種移動支援サービスや機能との連携 (詳細リンク)
	交通機関 又は観光 施設に係 るフリーパス	各観光施設におけるフリーパスと、Universal MaaSが提供するサービス「一括サポート手配」「ユニバーサル地図/ナビ」との連携を予定（詳細は調整中）

事業イメージ	
事業イメージ（MaaSを通して提供する観光サービスを含むこと）	
評価指標	
[指標] (1) 一括サポート手配の対象事業者拡大 (2) ユニバーサル地図/ナビの社会実装地域の拡大 [目標] (1) 各事業者/プラットフォームとシステム連携 (2) ユニバーサル地図/ナビの認知度向上と利用者数増加 [測定方法] (1) 各プラットフォームとの接続インターフェースの構築完了 (2) 社会実装への道筋のついた地域＝前年比 10件増	
今後の方向性	
(1) 一括サポート手配：連携交通事業者を拡大し、各地域内外の人流増に繋がる基盤を構築 (2) ユニバーサル地図/ナビ：導入エリアを拡大、各地域の課題解決に資する情報を充実化 ⇒ (1) (2) を実施しつつ、対象となる移動躊躇層の幅を更に広げ、利用者増を目指す	